



## 最優秀賞

### 宮城県 有限会社マルカメ 「地域に密着した社会貢献活動」事業



マルカメグループ 会長  
古内亀義さん

#### 選考理由

社会貢献活動審査委員会  
委員

松尾守人氏

エコキャップの回収を、地元小中学校と連携して行い、集まったキャップが直接ホールに持ち込まれるまでの密な協力体制が形成されている。

年間を通してカーブミラーを自分たちの手で清掃、大震災の時には警備員を配置巡回させて交通事故防止に努め、さらには避難所や被災地に赴き食料や寝具を提供した。

こうした地域に密着した地道な継続的な活動、かつ自らが直接参加して汗を流す活動が、地域住民から厚い信頼を得ていることを評価したい。



## 自分たちが汗をかくことで 地域と一体となった 社会貢献活動を展開

地域内のカーブミラーを毎日、地道に清掃する車を運転するドライバーにとって、カーブミラーは安全運転上、大切なものである。特に通行量の多い道路や見通しがあまりよくない道路では、カーブミラーは欠かせない。しかし、よく見てみると、汚れて見えにくくなっているものや、角度がずれてしまったものがあることに気づく。命に直結する役割を持つものだけに、いつも正常に機能してほしいものである。

地域にあるカーブミラーを年間を通じて清掃し、交通事故防止に取り組んでいるのが、宮城県大崎市に「あーばん三本木店」を構える(有)マルカメである。

「地域内を巡回中にカーブミラーの汚れに気づいたことがきっかけでした。試しに磨いてみたら、とてもきれいになった。そういう目で地域内を見てみると、通学路、市街地、交差点、カーブなどに想像以上にカーブミラーが多いことに気づきました。これをきれいにすることが地域の交通安全につながるのではないかと思います、会社として清掃を行うことを決めました」と、取締役 三本木事業統括 本部長の遊佐久美さん。

清掃活動を始めてから7年になるが、対象となるのは、ホールのある三本木地区と、お隣の加美町にあるカーブミラーのうち、清掃可能な57カ所。毎日、2～3カ所を基本的に清掃を行うので、1本につき月2回ほど回るということ。「台風や強風など、よほどの荒天でない限り、毎日どこかのカーブミラーを磨いています。ホールの宣伝カーに清掃道具を積んでいって、当社の赤い制服を着て清掃を行うので、地域の方々からもマルカメだと認知されています。いつもありがとう、とお声をかけていただけるのがうれしいですね」と、遊佐さんは話す。マルカメでは専任の清掃担当者を地元から採用しているため、貴重な就労の機会ともなっている。清掃時にはカーブミラーや付近のガードレールなどのチェックも併せて行い、壊れたり、破損している箇所があれば地元の警察署に連絡していると



毎日、2～3カ所のカーブミラーを清掃している



折り込みチラシの裏面に掲載している振り込め詐欺、地震、交通事故防止などに対する啓発記事



店舗に設置している  
ペットボトルキャップ回収箱

いう。

また、マルカメでは毎月1回、新聞への折り込みチラシを実施しているが、その裏面に「まるかめ犯罪抑止ニュース」として、振り込め詐欺、火災、地震、交通事故などに対する啓発記事を掲載し、安全で安心できる町づくりの構築に協力している。カーブミラーの清掃に加え、こうした犯罪・事故防止活動に対し、地元の警察署から3年連続で感謝状が贈られている。

#### 絆を大切に、地域住民と一体になった活動

さらに、地域と一体になった社会貢献活動として注目されるのが、発展途上国の子どもたちにポリオワクチンを贈るためのペットボトルのキャップ回収活動である。これは5年前から実施している活動だが、当初はホール単独の活動だったものが、いまでは古川地区遊技業組合傘下の全12ホールが実施しているほか、地元の小・中学生が生徒会活動として回収に協力するなど、地域をあげた活動に発展している。「ホールに回収箱を設置することで、

ご来店のお客様だけでなく、地域住民の方々の持ち込みもあります。当社では清掃班が分別や洗浄を行い、袋や段ボール箱に詰め、送料を負担して、エコキャップ推進協会へ送ります。当社の単独名義の場合と地区組合名義の場合がありますが、いずれにしろ、お客様や住民の善意がムダにならないよう配慮をしながら、活動に取り組んでいきたいと思っています」と、遊佐さん。

こうした地域に密着した継続的活動の原点にあるのは、さまざまなレベルで“絆”を大切に、マルカメの社風であり、昨年10周年を迎えることができたのも地域の方々が出店にあたって温かく迎え入れてくれたからだという感謝の気持ちである。自分たちが汗をかくことでそうした感謝の気持ちを伝えるとともに、地元へ根づいた企業として地域と共生していきたいというのが、マルカメの願いである。そうした姿勢は東日本大震災で地元へ設けられた避難所に直接、食料や飲料、毛布などを届けたり、地元の要望に応じて夏祭りや正月に花火を打ち上げたりすることにも表われている。